

PTA活動紹介		高P連受付番号	2
PTA(学校)名	愛知県立新川高等学校PTA	部門	2
活動テーマ	学校祭を盛り上げるためのPTA企画の実施		
キーワード	連携	絆	無理をせず
開催日	平成30年9月11日(火)		
場所	本校 社会科教室		
時間	午前8:30~午後4:00 (営業時間 午前9:00~午後2:00)		
参加者	PTA役員・会員40名		
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・新川祭(学校祭)の折、子どもたちの思い出が残る活動の手伝いをし、盛り上げる。 ・収益金を自然災害に遭われた地域に送付し、一日も早い復興を祈念する。 ・会員の協力や連携を通して、PTA相互の結びつきを強める。 		
活動ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒第一主義~生徒達の活動を側面から盛り上げる~ ・自分たちのできることを、できる範囲で 		
主体委員会名・講師名等	愛知県立新川高等学校PTA		

<事前準備とPR>



通路PR

このようなPTAの学校祭への協力は、以前から行なわれていたが、先輩から後輩へそのノウハウをしっかりと受け継ぎ、本年度は、仕入れや準備、テーブル等の設定や商品の陳列に至るまで、すでに卒業されたOBからのアドバイスや伝統に現会員の考えを合わせ、よりよいものとなった。特に本年度において、工夫した点は、①例年の販売傾向をしっかりと分析したこと。よく売れる人気のあるものは当然多く仕入れるが、例年少し売れ残っていたパンについて、日持ちのするものに切り替え、日を置いても食べられるものを仕入れた。②会場の収容力をアップさせたこと。例年と同じ場所ではあるものの、なるべく多くの生徒や保護者を収容できるようにと、事前準備の段階からテーブルのレイアウトを熟考し、試行錯誤を繰り返しながら、本年度のような配置にたどり着き、その収容力を大幅にアップさせた。③生徒への周知機会を増やすことにより、生徒へ関心を高めたこと。生徒達への周知方法として階段や通路にPR用の設置・掲示を行っていたが、例年より数を増やし、さらに生徒の目のつきやすいところに掲示した。また、開会式の生徒全員が集まる場においても、役員自らがステージに立ち、PTAの喫茶コーナーやバザー、パンの販売をしっかりとPRした。また、会場への案内・誘導や入り口の表示にも工夫を凝らし、利用しやすい雰囲気の高揚に努めた。



入口の案内看板



保護者による開会式でのPR

メール送信先 info@aichikoupren.org

<喫茶コーナー>

喫茶コーナーは、例年特に人気が高く、早目に売り切れてしまったり、せっかく喫茶コーナーを訪れても、満席で利用できないといったことが見られた。そのため、ケーキの仕入れる量を増やしたり、通路を確保しつつ例年以上に詰めてテーブルを設営するなど、対応を工夫した。その甲斐あって、開店から多くの生徒、保護者が来店し、今まで以上に盛況であった。また、昨年は、時間帯により来客数にバラツキが見られたが本年度は事前のPRが功を奏したためか、開始から終了まで、ほぼ席が埋まるという盛況ぶりであった。



喫茶コーナーの様子

<ケーキ・パン・飲み物の販売>



パン・飲み物の販売

パンや飲み物の販売については、例年、喫茶コーナーや不用品バザーを訪れた際に合わせて購入する生徒や保護者が多いため、昨年度の反省から、本年度は日持ちするものを仕入れて販売することとした。その狙いが当たり、多くの生徒がパンを購入してくれた。ただ、日持ちするパンは多少値段を高目に設定せざるを得ず、利益的には多くを望めなかったものの、薄利多売を目的とし、例年以上のパン販売も達成できた。飲み物についても、校内の自販機には置いていない種類をそろえ販売したため、こちらについても好評であった。

<不用品バザー>

このセクションについては、PTA会員の協力の下、家庭で不用となったもの(衣類、文具類、タオルや石鹸等)を販売するもので、購入主体は、例年保護者や職員である。こちらについても、新品又は新品同様の十分使えるものばかりであり、さらに早い物勝ちであったため、早々から多くの購入者が訪れ、大変好評であった。



不用品バザーの様子

<全体>

本年度のPTA企画「café de maman」は、早目に構想を練り、先輩からのアドバイスや経験、失敗を十分に活かし、学校祭を陰で盛り上げるという共通意識を持って取り組み、大きな成果を得ることができたと考えている。先人達が始めた企画を、伝統を大切に引き継ぎつつ、より精選を重ね、今現在の新川高等学校にマッチしたPTA企画ができあがってきたように思う。今後も学校や時代、社会のニーズに応えつつ、更なる発展を目指し、模索していきたいと思う。今回の企画は、まさに伝統と絆を実感できた、大変達成感のあるものとなった。



関係者全員での集合写真・溢れる達成感